

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>1 時勢の変化と教育に対する社会的ニーズの推移に対応した、特色ある教育の創出</p> <p>2 基礎学力を身につけるとともに、進路目標に応じた学力・能力を身につけ、自らを高め、将来を切り拓いていくことができる生徒の育成</p> <p>3 郷土の自然や文化に学び、前向きに地域社会とかわかり、貢献しようとする姿勢を持つことのできる生徒の育成</p>	<p>1 学校活性化の具現化を進め、生徒・保護者や地域のニーズと期待に応える目標を掲げ、教育活動を推進した。本校の特色を活かした教育課程、学科編成を検討することができた。今後、新学習指導要領や新たな取組に向けた迅速な対応が必要である。</p> <p>2 専門学科の受検者数が増加した一方、普通科は前期選抜A2方式を拡大したが、生徒数確保にはつながらなかった。普通科の特色をより明確にし、生徒数確保に取り組んでいくことが大切である。</p> <p>3 少人数の特色を活かした丁寧な個別指導の実施等、学力・能力の向上を図った。今後も少人数のメリットを生かし、進路を切り開き生きる力を養う教育を推進する。</p> <p>4 個別指導、予備校サテライト講座の実施、英語スピーチコンテストの実施など本校独自の学習システムを推進し、学力向上や進路実現への対応を進めた。今後も、高大接続改革や新たな入試制度に向けたより具体的な指導を進めることが大切である。</p> <p>5 地域創生推進校として地域と連携し、地域に開かれた取り組みを積極的に行い、地域からも高い評価を得た。今後も小・中学校との学校間連携を一層進めることが大切である。</p>	<p>1 学校活性化構想の具現化を更に進め、時勢や地域・生徒・保護者のニーズと期待に応える教育活動を推進する</p> <p>2 令和2年度入試における全国募集、学科改編に取り組むとともに、新たな寮の整備を進める</p> <p>3 多様な生徒の実態に応じ、学ぶ姿勢の確立や基礎学力の定着を図るとともに、進路実現に向けた学力・能力の向上を推進し、生徒が学びの満足感を得られる学校づくりを行う</p> <p>4 生徒の進路希望の実現、進学実績の向上をめざし、主体的・能動的な学びに導く、質の高い教科指導を組織的に展開する。また、新学習指導要領、高大接続改革、新たな大学入試制度への対応を迅速・的確に行う</p> <p>5 小中高の連携を進め、学科や部活動など学校の特色をより明確にし、積極的な情報発信や、組織的、効果的な生徒募集を行う</p> <p>6 「地域創生推進校」として、地域と連携し、地域に信頼され、地域の活性化に貢献できる取組を推進する</p> <p>7 部活動のあり方を検討するとともに、更なる特色化、活性化を進める</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
組織運営	学校活性化構想の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・全国募集の実施に向けた校内体制や制度の整備 ・学科改編に向けた校内体制や制度の整備 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・京都フォレスト科への改編、全国募集の開始、新学習指導要領の導入に向けた新教育課程案の作成など、関係分掌、会議を中心に実施する事ができた。 ・働き方改革の推進に向け、部長会の縮減や事前の連携を進める事ができた。 ・教職員の能力向上につながる研修をより効果的に実施できるように務める。
	「チーム北桑田」としての組織的な対応の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・部長会議を中心とした各種会議の効果的な実施 ・分掌間の連携の推進 	A	A	
	働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・校務の整理や効率的な会議の実施などによる働き方改革の推進 	A	A	
	高大接続、大学入試改革、新教育課程の実施などに向けた教員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修やセンター研修などの研修の効果的な受講の推進 	B	A	
教育課程の編成と実施	普通科、森林リサーチ科共に、3年間を通して育てたい生徒の姿が明確に伝わる教育課程の編成と実施	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度学習指導要領改訂を見通しながら、「本年度学校経営の重点項目2」に対応する教育課程の再編成 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度に改定する新教育課程（素案）の編成及び論点整理を終えた。令和2年度より先行実施する項目を丁寧に実施段階へ移行する。
学習指導	学習指導に関する授業評価アンケートにおける肯定的な意見平均85%以上の達成	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が生徒を指導助言する時間を増すことを目的とした教育計画・会議の精選、教育環境の整備 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・平均79.7%。教育効果を高める週案での教育活動を実施し、主管会議開催回数及び構成員の精選等を実施した。年間行事計画を精査し、最大限、年間授業時間数の確保に努める。
		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の知的好奇心をくすぐる授業改善と家庭学習の習慣化を両輪とした学力伸長 	B		
進路指導	生徒の進路希望の実現、進学実績の向上をめざし、生徒一人ひとりに寄り添った希望進路達成のための支援	<ul style="list-style-type: none"> ・各担任団と連携し、3年間を見通した進路指導を推進することによる、生徒一人ひとりの希望進路の実現 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・担任団と連携し、生徒個々に応じた進路指導を推進することができた。 ・高大接続改革、新入試制度については、混乱した部分もあったが、生徒・保護者に対して迅速、的確な情報提供ができた。 ・サテライト講座導入2年目となりスムーズな運用ができた。今後は、生徒の学力を更に向上させるような実施方法を検討する必要がある。 ・基礎学力テストや模擬試験の成績下位層を減らす取組が課題である。
		<ul style="list-style-type: none"> ・平常講習・サテライト講座を効果的に実施することによる、学力と進学実績の向上 	B		
		<ul style="list-style-type: none"> ・高大接続改革、新たな大学入試制度への迅速・的確な対応 	A		
		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者向け進路講演会・見学会等の実施や情報提供の充実 	A		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
生徒指導	基本的生活習慣の確立と規範意識を基とする社会性の養成	<ul style="list-style-type: none"> ・当たり前が普通のできる学校生活の構築 ・規則違反やマナー違反・不正に気づき、生徒教職員全員が安心して安全と感じる学校生活の推進 ・家庭・関係機関と連携した問題の未然防止及び教職員の一致した指導の構築 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣と規範意識の養成について、立ち番や巡回等で声かけを行った。気になる生徒については担任等と連携し指導に当たることができた。 ・問題事象に対しては面談等により自発的に該当生徒に考えさせ、再発を防ぐことができた。 ・SNSの取扱いについては、規範意識やマナー・モラルの面でより一層の指導が必要である。 ・安全教育については事故等はなかったが、自転車に関する安全指導は継続的に行う必要がある。
	価値判断能力と自立性の養成	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事・地域行事への意欲的な関わりによる創造力・人間力の形成 	A		
	安全教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭・地域と連携し、心身の健全な成長発達を目指した安全教育の徹底 	B		
特別活動	生徒会活動と部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭の一般公開等、校内外の地域活性化行事への積極的参加 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会を中心に、文化祭・体育祭等の行事を生徒主体で行うことができた。 ・部活動は本年度も86%と高い加入率を維持しているが、生徒減少に伴う部活動活性化への具体策を検討していく必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の加入率90%達成及び部活動の意義の検討を通じた一層の特色化・活性化の推進 	B		
健康・安全教育	保健管理、保健教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・各種健診結果に基づく細かな指導と保護者連携のもとによる必要な生徒の医療機関受診率の向上 ・委員会活動を充実させることによる日頃の健康管理や環境美化の意識向上 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒、保護者への再受診呼びかけは細かく行っているが、なかなか再受診率が向上していないのが現状である。 ・美化局による掃除点検、用具洗浄整理等、保健局による健康啓発だよりなど積極的な活動ができていた。 ・2年で「生命のがん教育」、3年「LGBTの理解」と新しいものを取り入れ生徒に自分たちを取り巻く状況を考えさせる良い学習になった。
		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の状況を鑑みた保健学習の実施を通じた、自分を取り巻く情勢の理解及び正しい言動についての考察 	A		
	特別な支援を要する生徒への指導・支援の工夫と充実	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員研修実施するとともに、学年・分掌・教科等との連携を密にし生徒の状況の把握、共通理解のもと合理的配慮に基づく指導の実施 	A		<ul style="list-style-type: none"> ・大学での学生支援に関する講演を実施し大学との連携についての研修ができた。教育相談会議ではスクールカウンセラーからのアドバイスの機会も増え、情報交流、共通理解も細かくできた。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
人権教育	生徒の人権感覚を育てる	・生徒の実情に即した人権教育を実施することによる、人権を尊重する姿勢や差別を許さない態度の育成	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年1年2回の特設HR学習を実施できた。 ・同和問題学習を核に据えた特設HR学習計画を立て始めた。 ・日常の教育活動の中で人権意識をさらに高める取組を進める事が課題である。
	関係分掌との連携を密にする	・関係分掌と連携した課題に対する適切な対応	B		
	教職員研修の充実	・教職員の世代交代を踏まえ、これまでの人権教育の成果と課題を引き継ぐ取り組みの推進	B		
道徳教育	規律・規範を重んじる姿勢の養成	・規則や、公共の場におけるマナーを守る態度の育成	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・規則・マナーに関しては概ね守ることができているものの、携帯電話の使用については課題が見られた。 ・各教科における授業や学校行事を通して、望ましい人間関係や人間性について考え、実践する機会を持つことができた。
	愛情を持って人に接する人間性の養成	・各教科や各分掌との連携を図り、人間として望ましい在り方について考える姿勢の育成	B		
家庭・地域との連携	地域連携の推進と取組の充実	・地域から信頼される「地域創生推進校」を目指し、地域やPTAと連携した魅力ある学校づくり	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAとの連携で学校行事など活発な活動が行えた。 ・地域広報紙「KITAKUWADA STYLE」の発行に努め地域に情報発信した。
	北桑田高校の取り組みの広報活動	・「KITAKUWADA STYLE」・「PTAだより」・HP更新・PTAメール等の広報発信をタイムリーにし、「みがく。かがやく。」の実践の発信	B		
活性化推進	部活動の更なる活性化と連携した生徒募集	・生徒確保を目標に、中学校等との連携に取り組み特色を生かした活動の推進	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・イチョウ並木や北桑田プライトンのライトアップで北高の環境や魅力を発信した。 ・寮の定員問題から生徒募集について最大の効果を上げることは困難だった。
	特色ある部活の全国募集及び府内全域からの生徒募集について広報に努める	・府内全域、特に京都市・乙訓地域での生徒募集の取組の継続的な実施	B		
学校図書館	学校図書館の活用を通し、“生きる力”の醸成、豊かな読書生活への助長	・読書活動の推進・読解力向上のための読書推進 ・少人数を活かした調べ学習や必要に応じた資料提供ならびに文献検索の推進	B B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・館内図書展示・図書館だより・新着図書案内の配布を達成。展示・図書館だより等により紹介した図書を手に取る生徒も見られた。 ・課題は学習支援に適した資料の提供。
	地域文化の資料・情報収集に努め、地域活性化への貢献を図る	・郷土に関する文学・文学者を中心に、地域全体に関わる資料の収集・展示	B		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
農場部	効率的・効果的な農場運営	・農業クラブ活動・各種の研修会への参加や資格取得の奨励及び技術向上の推進	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得・農業クラブ活動へのサポートは積極的に行うことができた。 ・農場環境整備、収益品生産は効率的に行うことができ、予定以上の売り上げがあった。 ・学科改編に対応できる新備品や設備の導入は思うように進んでいないので、来年度も引き続き働きかける。
		・安全管理能力を高め、安心・安全な実習環境の推進	B		
		・農業クラブ府連大会の活動内容のブラッシュアップの推進	A		
		・農場部の効率的・効果的な運営の実施	A		
		・学科改編に向けた情報収集や検討の実施	A		
寮務部	円滑な寮生活を送るための、規則・ルール徹底	・寮生徒との対話を充実させた愛情ある指導の推進と、規則厳守させるためのきめ細かな生活指導の徹底	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的にはルール・規則は守れているが生活習慣の向上が必要。 ・一部設備の改善は図れたが急速に老朽化している設備充実が課題。
	生活環境の維持及び施設の充実	・施設・設備の点検、改善による環境整備の充実	A		
事務部	地域や保護者に希望を与え、生徒、教職員が安心できる教育環境づくり	・安心安全な施設設備のさらなる充実、老朽箇所の点検及び改修の実施	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・寮を含め、学校設備等で課題のある部分は、改善を図ることができた。 ・美山分校の設備整備を含め、一層連携を図ることが課題
		・寮務部との連携、寄宿舎の更なる充実	A		
		・美山分校との連携及び情報共有	B		
第1学年	学習環境の充実と改善	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業内容を充実による基礎学力の向上 ・自己実現に向けた、進路開拓に必要なとする力の養成 	A	A	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭、体育祭、学年行事等、有意義に行えた。 ・生徒個人への学習指導、生活指導は一定1年間を通して充実させることができた。 ・適時、個人面談を各 HR ごとに行うことができた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の行動対して今以上に自覚と責任が持て社会に通用する人物を目指す。 ・生徒それぞれの生活環境やあらゆる場面で自己肯定感の醸成を進め、問題を自己解決できる能力を身につける。
	社会人基礎力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活や集団組織で働く上で重要とされる、礼節ある態度の育成、自身の行動に対する責任と自覚、自己肯定感の醸成 	B		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
第2学年	進路実現に向けた学習指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 授業規律の確保や家庭学習の習慣化による学習意欲の向上 具体的な進路目標を設定し、新入試に向けた準備を進め、ポートフォリオ等を活用した適切な進路指導の実施 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 日々の授業を大切にする意識を持たせ、進路に向けた意識を高めることができた。 新入試に向けて、進路学習を実施するなど、適切な指導に当たることができた。
	適切な生活習慣の確立と規範意識の育成	<ul style="list-style-type: none"> 規範意識を高め、言葉遣いや服装など、高校生としてふさわしい態度の育成 学校行事等を通じた仲間意識の向上、リーダーシップや協調性の伸張 	B	A	
第3学年	希望進路実現のための主体的な学習と確かな実力の養成	<ul style="list-style-type: none"> 授業を基本として、家庭学習、平常補習、サテライト講座などに主体的に取り組む姿勢の育成 一人ひとりに応じた、適切かつ系統的、計画的な進路指導の推進 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 3年間を通じて、比較的落ち着いた雰囲気の中で授業に取り組むことができた。 平常補習や、サテライト講座なども積極的に取り組む中で、ほぼ全員が第一志望を実現することができたのは、生徒の努力は言うまでもないが、先生方の支えによるところも大きい。 早期の三者面談を通じて、保護者と連携することができ、適切な進路指導をすることができた。 諸行事を通じて様々なことを学び、将来地域を支えてくれる人材が、出てきてくれることを願うばかりである。
	家庭・地域社会との密接な連携	<ul style="list-style-type: none"> 早期に三者面談を行い、保護者と連携しながら具体的な希望進路を把握し、実現にむけた適切な情報の提供 月1度の割合で「学年便り」を発行するなど、様々な機会を通じた家庭との連携の推進 全校清掃、文化祭・体育祭などの諸行事を通じた地域社会への貢献の実施、将来地域を支える人材の育成 	A	A	

<p>学校関係者 評価委員会 による評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特色を活かした活動、特色化を進める活動が推進できている。 ・進路実現に見られるように、予備校サテライト講座の活用など効果的な学習活動により、生徒の力が伸びていることが分かる。 ・生徒の自己肯定感の高まりや、地域の良さを生徒が実感していると感じられる。 ・テレビ放映や新聞などへの掲載などにより、学校の特色、魅力などの情報が多く発信されているように感じる。 ・子どもの保護者世代のいわゆる口コミによる情報は生徒募集にとっても大変重要であり、地域への公開や適切な情報発信など、学校を知ってもらう活動をさらに進めてもらいたい。 ・生徒募集に関わる寮の問題は重要であり、新しい寮を含め、寮の整備を進めてもらいたい。
<p>次年度に 向けた改善の 方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数を活かした個に応じた学習指導、進路指導を進めるとともに、予備校サテライト講座、進路講習、模試等を効果的に活用し、入試改革に対応した学習指導、進路指導の構築を一層進め、生徒の進路実現を達成する。 ・生徒数などに対応した部活動の在り方を考えるとともに、スポーツシューティングなど新たな部活動を含め特色化を一層進める。 ・地域の小中学校との連携の一層推進を図ると共に、府内外へのタイムリーな情報発信、生徒募集に係る活性化構想の推進と効果的活用など、小中学生、保護者に対し本校の魅力伝える取組を一層進める。 ・本校の特色を活かせる入学者選抜の内容・方法を更に検討し、効果的な生徒募集活動を進める。 ・寮の整備、全国募集、部活動の特色化など、他地域からも含めた生徒数の確保に向けた取組を一層進める。 ・行事の精選、会議の効率化、働き方改革の推進をふまえて、本校の特色ある教育活動を進める。